



2004 2005かものはし活動報告書



CONTENTS

代表挨拶、2004年度振り返り……2

かものはしの目指すモデル……3

中期的ビジョンのなかの2004年度の位置づけ……4

2004年度

 たまごプロジェクトの報告……5

 カンボジアPCスクールの様子……6,7

 xperlの成果……8

 他の活動……9

2005年度

 計画概要……10

 訓練コース開発の予定……11

 カンボジア仕事作り事業～ xperl～……12

 カンボジア仕事作り事業～ 会員事業～……13

2004年度 財務報告……14、15



代表挨拶



代表理事 村田早耶香

私達は、2004年にカンボジアに事務所を設置し、現地に根付いた支援を始めることが出来るようになりました。

このように現地で活動を開始することが出来たのも、応援して下さいの皆様のおかげと大変感謝しております。

かものはしプロジェクトは、活動を始めて、今年の7月で3年目になります。今日までの私の願いは、一人でも多くの子どもが、買春という搾取から守られ、未来に希望を持って生きられるようにしたいということでした。

カンボジアで買春の被害に遭った6歳と10歳の姉妹に会った時の衝撃は、忘れることが出来ません。

彼女たちは家族を養うために売られ、強制的に客を取らされていました。客を取らないと電気ショックを与えられていたため、NGOに保護された当時は腕に沢山傷があったそうです。しかし、彼らが働かなければ

家族が生活していけないので、NGOから逃げ出し、売春宿に戻ってしまったそうです。働かされていた時のことを思い出して夜中に泣き叫んでいた彼らなのに、また売春宿に戻ってしまったことを聞き、愕然としました。

彼女たちのような境遇に陥る子どもをこれ以上増やさないう、被害に遭う可能性のある子どもを保護し、体を売らなくても経済的に自立出来る事業モデルをカンボジアで実施できるように、活動を少しずつですが、着実に進めていきたいと思っています。

2005年3月31日に行われた卒業式で嬉しそうに証書を受け取る子ども達を見て、私達にとって、こういう子ども達の笑顔を守ることは何よりも意義のあることだと感じました。一人でも多くの子ども笑顔を守り、彼らが将来に希望を持てるよう、皆さんと一緒に歩んでいきたいと思っています。

2004年度のあゆみ

6月 駐在員日和佐、米満派遣



駐在員の日和佐綾子(左)と米満愛(右)
カンボジアに活動基盤を作るため
飛び立った

12月 PCスクール開始



28名の子どもたちがワード・エクセルを
四ヶ月間(毎日1.5時間)学んだ

3月 専従職員の 増加

事業に
専念するスタッフが増えた

3月 PCスクール卒業式

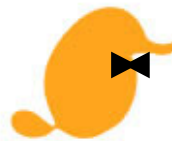


カンボジア事務所で
卒業証書の授与。全員が
当初目標とした学力に達した

8月 会員事業開始

システム開発事業に次ぐ
収益事業として会員事業
を開始。初めての試みで
試行錯誤を続けている

9月 NPO法人格取得

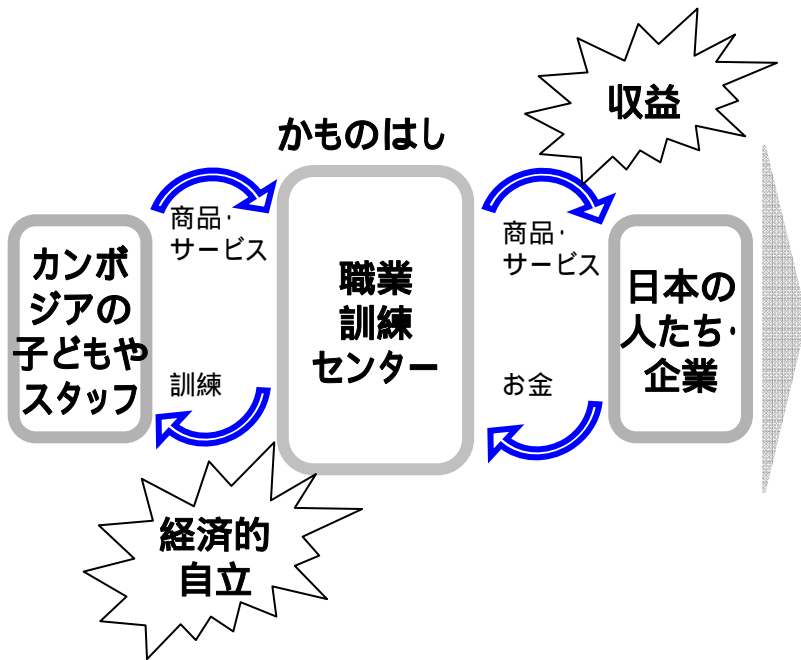




かものはしの目指すモデル

買春問題を根本的に解決するために子どもたちが経済的に自立することを目指しています。日本から仕事を請けることで収益を上げ、その賃金格差で職業訓練センターを運営していくことが可能となります。

このモデルはまだ検証段階であり、今後も子どもの経済的自立に最も効果的なモデルを構築していきます。



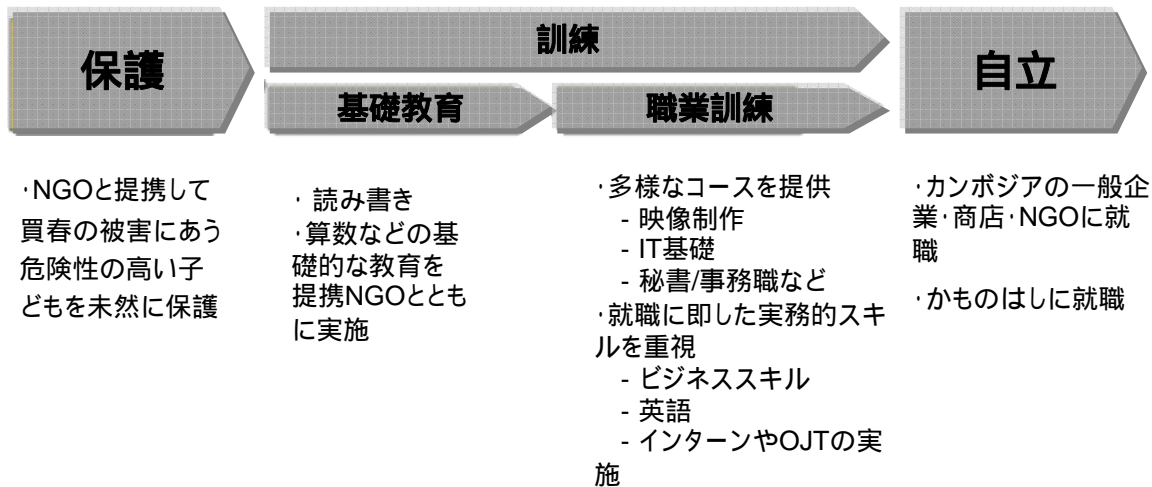
・センターは以下の2つの役割を持ちます。
子どもに訓練を提供し自立してもらうセンター
日本へカンボジアの強みを輸出するセンター

具体的には映像・WEB制作コース、基本的なPCスキルを学び事務職に就職するコース、簡単なPC修理・ソフトインストールをするITコースを提供を想定しています。

日本人たちや企業にカンボジアの良さ・強みをお届けします。映像や写真、WEBを通して、カンボジアからコンテンツを会員向けに配信し、また、人件費の安さを生かし、データの打ち込みなどの仕事を受注します。

子どもたちの自立の仕組み

NGOと提携し基礎教育・職業訓練を提供します





中期的ビジョンのなかの2004年度の位置づけ



カンボジアで事業基盤を作ることが目的でした

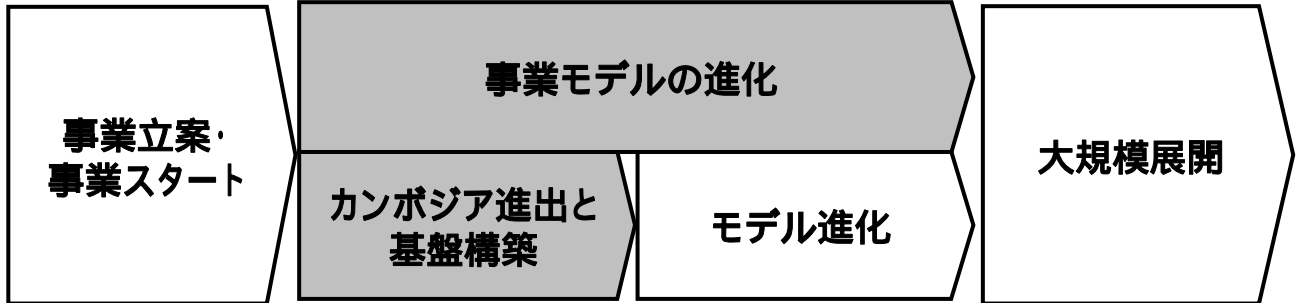
2002年～

2003年

2004年

2005年

2006年～



- ・日本での事業計画立案開始
- ・カンボジアでの調査

- ・カンボジアでの事業基盤づくり(PC教室の試験的展開)
- ・会員事業/システム開発事業の日本での展開

- ・経済自立モデル構築(コース開発・提供)
- ・収益事業のカンボジア展開(カンボジアへの発注)
- ・モデルの再設計

- ・事業の大規模展開(NGO提携、訓練校設立、カンボジアへの仕事発注増加)

コラム～森を創る～ 理事 本木恵介

事業モデルの進化

かものはしプロジェクトは二つの事業モデルから構成され、現在、そのモデルを進化させている。一つは児童買春の被害にあう可能性がある子どもを保護し、経済的自立を助ける仕組みである経済自立モデル。もう一つはその経済自立を支え、プロジェクトの成長性や持続性を担保にする収益モデルだ。このモデルは多くの人に指摘されるように魅力と欠陥を内在させている。

一度作り上げたモデルを実現するため、より成長性/収益性の高い事業へと進化させている。そのために日々議論し、ただ議論するだけでなく、日本とカンボジアにおいて事業を小規模展開している。事業モデルを試行錯誤し、これだと決めたら、それを大規模に展開する予定だ。

2004年度の振り返り～ 事業発展の土台をカンボジアに構築

カンボジアではそのために事業基盤をまず構築してきた(まだまだ弱いけど)。日本人二人が駐在し、日々奮闘している。当初は、「こんな若い連中で夢ばかり言って、現実をわかっていないのに大丈夫だろうか」と心配もしくは諫言された。しかし、今ではカンボジアのNGOスタッフやビジネスパーソンの信頼を少なからず獲得できた。

それには、PC教室を4カ月間運営したことが大きい。初めての試みではあるが、PC教師のテビーを中心に、子どもたちにPCを教えることができた。子どもたちはPC教室の継続を希望したけれど、このクオリティをより上げて、彼らが厳しい労働事情の中で就職し、その後も自立を可能にするコンテンツにするために、いったんPC教室をやめることにした。

2005年度の抱負～ かものはしの森を創る

2005年度に実施する内容は様々だが、なかでも今年度是非ともやりたいと思っているのが、「かものはしの森を創る」ことだ。カンボジアの人や子どもたち、日本人たちや企業がひとつの生態系を織り成す。その森で子どもたちの子育てをするという感じ。その中で日本人たちにはカンボジアの現状を理解してもらいたいし、良さや楽しさを伝えたい。そして、みんなで一緒に楽しめたらよいと思う。かものはしはその下土台になる。

カンボジアで、子どもたちと踊ったことがある。彼らは麻薬中毒であったり、孤児だったり、性的被害のあった子どもたちである。僕は中学時代、電車で痴漢にあっつてゾッとしたことがあるけど、それ以上の恐怖を彼らは経験している。カンボジアにおいて、子どもたちが自分の夢をかなえる機会は少ないし、過酷な環境に直面することが多く、健やかに成長することが保証されない。本当は笑顔あふれる子どもたちなのに。そんな子どもたちのために、日本やカンボジアの人たちと森を創りたい。



「たまごプロジェクト」は成功、当初目指した成果を得ることが出来た

当初の目的

カンボジアでの活動基盤の構築
 PCスクールの実施
 カンボジアや職業訓練事業に関するノウハウの獲得

成果

事業基盤はできた

2004年の6月末からカンボジアに展開し、事務所の整備、クメール人スタッフの採用を行いました。スタッフは合計8名(ボランティア3名含む)を採用。クメール人スタッフとの仕事は困難な面がありましたが、PC教師のtevy(デビー)を中心にプロジェクト成功に向け、共に働けたと考えています。カンボジアで提携したNGOは4つあり、いずれも良い関係を構築することができました。



PC教師tevy(左)とChanet(右)

PCスクールは成功 PCスクールの基礎コンテンツとさまざまな経験を得た

PCスクールは2004年12月より、孤児の受け入れをしている4つのNGOの29人の子どもたちを対象に行いました。3か月間の訓練と1か月の補習を行い、週5日間、1時間半のオフィス(ワード・エクセル)の授業を行いました。



ボランティアの学生3名

チャンスが多く与えるという意味で3月末に、追試を行いました。2月の試験では合格点に達しなかった子どもたちも補習を頑張って受けにきたり、NGOで練習したりして全員が合格点に達しました。子どもたちからも「楽しく学べた」という感想をもらいました。



授業を受けている子どもたち。日本で集めたPCで学んでいる。

この期間にPCスクールの基礎コンテンツを獲得したとともに、子どもについての情報も得ることができました。訓練を行う上でモチベーションが最も重要だということがわかりました。年齢が高いほどモチベーションが高く、その理由として就職しなければならないという危機感があることが挙げられます。その他に、スクール運営の基礎的なノウハウも獲得しました。



卒業式。子どもたち全員に卒業証書を渡した。

今後の課題

カンボジア人スタッフと協働すること

今後、カンボジアでの事業を拡大する上で、カンボジア人を採用し、彼らの力を引き出す必要があります。現在、重要な仕事は日本人がマネジメントや作業をしていますが、これを徐々に委譲していくことが必要だと考えています。そのためには、彼らのモチベーションをうまく引き出すとともに、研修をして実務能力を上げる必要があります。

就職できる訓練コース開発

今年度は試験的にPCスクールを運営しましたが、今後は子どもたちを経済自立させるというゴールを見据えて、子どもたちが確実に自立できるコースを開発していく必要があります。2005年度はコース開発をひとつの柱として進めていきます。



カンボジア PCスクールの様子

事業立案	事業モデルの進化	大規模展開
	基盤構築	



8月に事務所を設立
(左)セキュリティのルッティさんがかものはし事務所の看板を作ってくれました。
(右)日和佐さんはカンボジア事務所の切り盛りをしています。



授業ではティー先生が一人一人の様子を見て教えて回ります。ティー先生は優しいと評判。ちょっと厳しさが足りないところが心配です。その後3人のボランティアアシスタントが入りました。



駐在員とカンボジア人スタッフ、ボランティアアシスタント。当初は授業はPC教師のtevy(一番右)のみで運営しましたが、子どものケアが十分ではないということで、三人のアシスタントに急遽加わってもらいました。日々、このメンバーでPC教室をよくするために議論して来ました。



一クラスだいたい10人で授業を受けます。遠くから自転車に乗ってくる子どももいます。



3月の卒業式前の遠足です。カンボジアで「ハワイビーチ」と呼ばれている海岸に行きました。船にも乗りました。



カンボジアでは女の子は肌をみせないで服を着たまま海に入ります。



3月31日
 かものはし事務所で卒業式を行いました。司会はチャネットさんと日和佐さん。ちょっと照れ気味です。

卒業式前の打ち合わせ。スピーチをするセイハーさんとブンラちゃんです。



前のほうに座っているのはこどもたち。後ろは来賓の方々です。提携しているNGOの人やJICAの人が来てくれました。当日時間を間違えて朝から来てしまった人もいました。

みなさんこんにちは。
 カンボジア国内、海外からコンピューター教室の卒業式に来て下さった方々に心から感謝しています。コンピューター教室の授業のおかげで、私はWord、Excelなどが出来るようになりました。卒業しても、もっとパソコンを勉強したいと思います。将来は、コンピューターの先生か、コンピューターメンテナンスをする人になりたいです。
 ~卒業式、ブンラのスピーチより~



提携NGO代表のコメント

今回のかものはしのプログラムは大変重要なものだったと思います。ここで得たPCの技術、知識は将来子どもたちの役に立つでしょう。将来子どもたちが学問を修め、就職するときPCは大きな武器となると思います。現在カンボジアではすべての面で発展を続けています。子どもがPCの技術をたかめればそれだけ就職に有利となるでしょう。PCが使えるればたくさんの職種に就職可能です。NGO、政治、病院などカンボジアの各所でPCの技術が求められています。

~カンボジアNGO OurHome代表 リボルさんインタビューより~

テビー先生のコメント

授業中は子どもたちのタイピングを気遣うことに気をつけていました。タイピングの速度が十分でない子試験や課題を消化できず、また授業中に説明を十分に理解できないからです。PCスクールを振り返って子どもたちの英語力不足が問題であると感じています。英語力が不足していて重要なコマンドやキーワードを理解できないのです。現在英語教育に重点をおいています。こどもたちはもっと英語を学ぶ必要があると感じています。

~テビー先生インタビューより~



2004年度 Xperlの成果



2004年度の目標

日々のシステム開発で売り上げと経験を積む
カンボジアに出す事業の選択、事業基盤の構築

成果

**目標には達成しなかったが
売上は前年度比大幅増加**

前年度比6倍の720万の売上を上げるものの、目標の1700万円は達成できませんでした。

受託案件に苦勞し、カンボジアに発注することはできなかった

案件に苦勞するたびに青木が投入され、組織の拡大に力を注げなかった。開発がうまくいかず、信頼を失うことがあった。スタッフの人数も仕事も大きく拡大することがなかなか出来なかった。

今後成長が見込める事業に出会った

書籍の電子化事業や、ブログ開発事業という2005年度大きく育ちそうな事業と出会った。

学んだこと

・青木はマネジメントに徹し、その他には営業だけ行って組織を拡大し、カンボジアに展開することを考え続けなければいけない

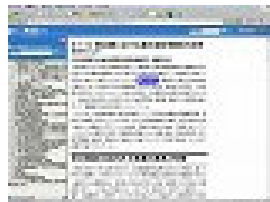
・受託案件であってもミッションに忠実に事業を選択していかないと、事業モデルを構築することができない

・高度なシステム開発は品質を担保できない。あまり拡大するべきではない

書籍の電子化

時期: 2005年3月

お客様の要望: 専門的な書誌をCD-ROM化し検索できるようにして、もういちど発行したい



書籍の電子化作業というのは私たちにとっても初めての経験でした。使いやすくなるように、どういったものが出来るのかから相談し、初めての作業ながら何とか進めていくことになりました。

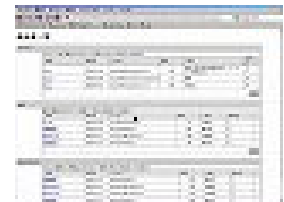
しかしデータの文字化けや、図表の崩れなど体験したことのない様々な技術的な課題が進めていく上で、お客様と連携を取りながら何とか入稿の1日前に納品することが出来ました。

結果的に非常に使いやすく、優れているという評価をいただき、今後他の書籍についても電子化を検討して頂けることがきまり、今年度の事業につながることとなりました。

バッグ縫製学校生徒管理システム

時期: 2004年5月

お客様の要望: 増えている生徒のコースの管理や対応、見本請求者の管理がしたい



バッグ縫製技術者を養成する学校を展開している会社からのご依頼でした。雑誌などに出るようになり、申込や資料請求が非常に多くなってきて、誰がいつ資料を請求してきたのか、生徒の申込やコースの定員はどうかということシステムで管理したいという要望でした。どういったシステムが適しているのか、というご相談から、システムの開発・立ち上げ、スタッフの方のサポートまで行いました。

ゴールデンウィーク前に仕事を任せていたスタッフと連絡が取れなくなってしまったため、3人のスタッフでずっと缶詰めになりました。最終的には満足して頂けるものを構築することが出来ました。



2004年度 他の活動

事業立案	事業モデルの進化		大規模展開
	基盤構築	モデル進化	

スタディツアー(8月、3月)



より多くの人に、カンボジアが抱える多くの問題やそれに取り組む様々な国際NGOの活動を実際に見学することで、問題の複雑さと深刻さに直接触れて学ぶ機会を得て欲しいと8月と3月にスタディツアーを実施しました。このスタディツアーでは、様々なNGOを訪問し、スタッフや保護されている子どもとの交流の場を多く設けています。国際協力の現場で生の声を聞き、より深い知識と理解を得られると好評でした。また、世界遺産アンコールワットの観光や、マーケットでの買い物など、カンボジアを肌で感じる事が出来ます。次回は8月に実施します。

NECチャリティコンサート(1月)

NEC学生起業塾以来、お世話になっているNEC主催のチャリティコンサートの寄付先にかものはしが選ばれました。1月23日に横浜みなとみらいホールで開催され、スタッフが募金のお願いに立ち、子どもの写真パネルの展示を行いました。演奏の前に、村田が事業にかける想いのスピーチを行い、演奏の合間にはたくさんの方から募金をいただきました。スタディツアーの参加者の方もお手伝い下さり、結果、NECチャリティコンサートの募金総額は歴代最高の670,055円を記録しました。また、当日参加したスタッフは素晴らしい演奏を楽しむことができました。



写真提供: NEC Corporation

事務所引越し(6月)



青木(左)と本木(右)。ミーティングの時はもっとにぎやかです。

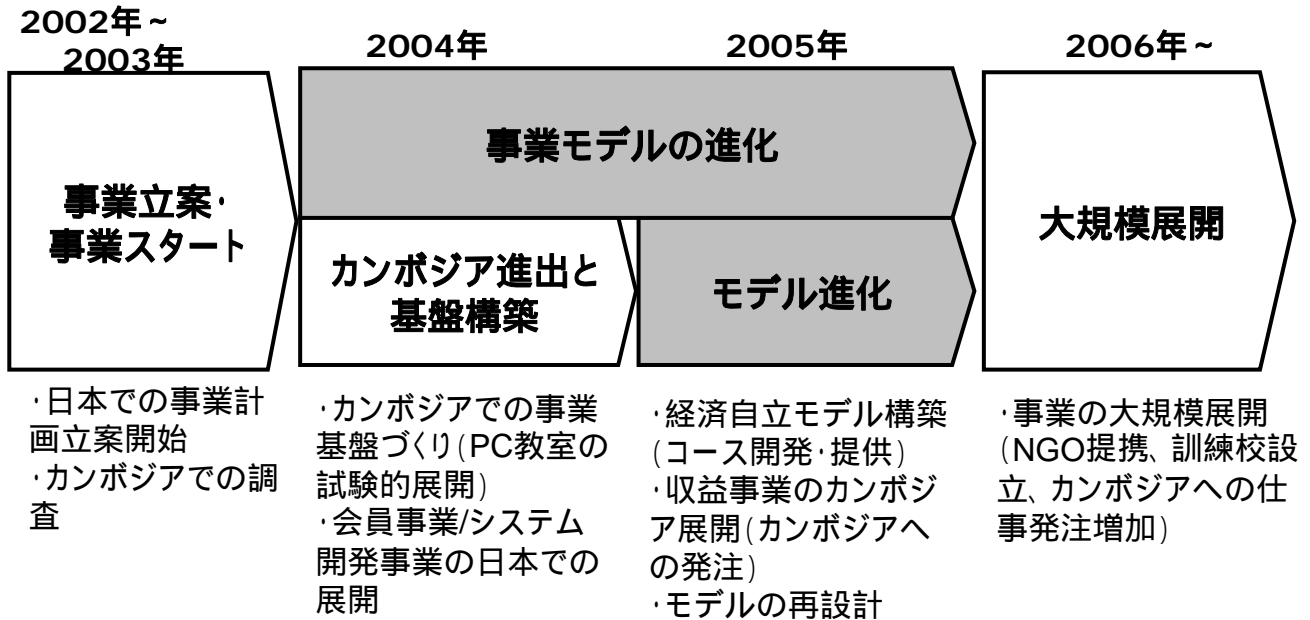
2003年6月から使用していた東京杉並のオフィス(通称:永福庵)から2004年6月に東京調布のオフィスへ移りました。永福庵以前は、毎週2-3回、喫茶店に集まりミーティングをし、作業は各自自宅で行っていました。徐々に収入が増え、永福庵を借りることにしました。民家の6畳一間でした。さらにメンバーが増え、より大きなオフィスが必要ということで国領に移りました。新しいオフィスでは日夜、スタッフが仕事をしています。まだまだホワイトボードや棚が足りていませんが、机・いすなどはだんだんと充実してきました。



2005年度 計画概要



子どもが自立できる仕組みと収益の仕組みを作ることが今年の目標です



具体的に実施すること



就職できるコース開発

- 子どもたちの就職により役立つコースのコアを開発します
- 企業ニーズを調査した上で、実際にコンテンツを開発、実施します

会員とカンボジアを繋げる

- 会員とカンボジアを繋げ、会員事業をパワーアップさせます。訓練コースと会員事業の相乗効果を出します
- カンボジアの映像や画像などを会員に配信します
- 将来は子どもたちがワークショップや訓練中に制作したものを配信する予定です

カンボジアにデータ入力やWEB開発を発注

- カンボジア人を雇い、仕事を発注し、適した事業領域を模索します
- 単純なデータ入力の仕事や、WEBサイトのデザイン・システムなどを発注し、実施します

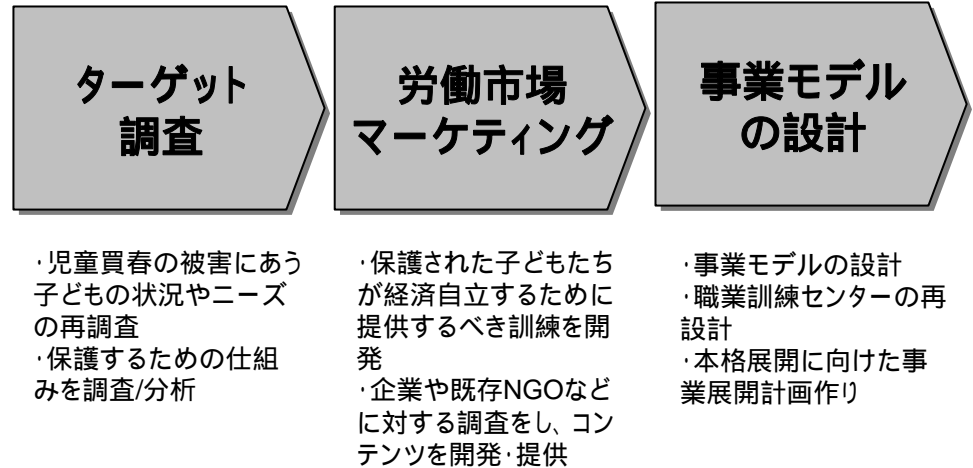


2005年度 訓練コース開発の予定

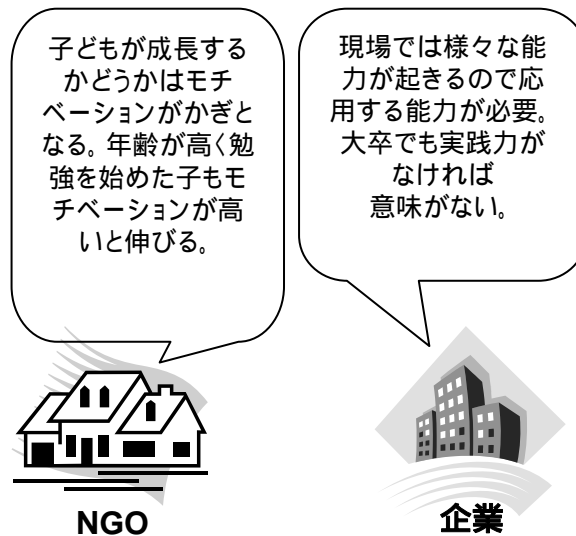


調査やコンテンツ開発をし、経済自立モデルを構築するのが狙いです

プロジェクト概要



現在わかっていること



今後の方針

- ・インターンシップやOJTを活用し実践能力の強化をめざす。
- ・「稼がなければ」というモチベーションを活かすことが重要

コラム ~ 2004年度を振り返って ~ 駐在員 日和佐 綾子

7月にカンボジアに展開して以来色々なことに苦労してきました。まず、来てすぐに事業計画をこのまま進めてしまっていたのかと悩みました。

現地の実態と実現可能性という点で示唆をうけましたが、それに対して解を見出すという経験が今までなかったためにとっても悩みました。

全てが初めてで、事務所を開くことや契約、人を雇うことなどひとつひとつ基本的な部分からやり方を学んできました。学ぶことは多かったけれど、その分時間がかかり、苦労もしたと思います。

しかし苦労はしたけれど、事業の方向性を例に上げてみれば、実際にやってみたことでターゲットの訓練にどれだけ時間がかかるのか、どのような対処が必要なのかがわかってきました。各NGOの活動が現実的に見えてきたために自分たちがどのような点で彼らに提供価値を示せるのかがわかってきました。

また全てが初めてだったという点で様々な人にヒアリングをしてきましたが、多くのサポートをしてくれる人に恵まれ、彼らとのつながりや重要性が今後大切になってくるのだと学びました。



2005年度抱負 ~ 青木健太 ~

Xperlでは2004年度、カンボジアに仕事を発注するというミッションに対し、大きな成果を出すことが出来ませんでした。しかし現在私たちは、カンボジアに展開するのに十分な基盤が整いつつあると感じています。まず、スタッフを増やし、個々の役割分担を明確にしたことで、カンボジアへの展開計画に非常に多くの時間を使うことが出来るようになりました。また、もともと私たちが考えていた大規模なシステム開発から、今後私たちの職業訓練センターで勉強する訓練生や卒業生の多くが参加出来る事業を育てていく、という方針に転換しました。

Xperlは「システム開発事業」から「仕事作り事業」へとその役割を変え、今年1年をミッションに向かって大きく前進する年にしたいと考えています。そのためには、まずカンボジアと一つでも多くの事業を共同で行うことが必要だと考え、実際に私自身が8月に実験ためカンボジアに1ヶ月滞在するつもりです。そうして作り上げる事業を、訓練コースのコンテンツに統合し、より多くの子どもたちが経済的に自立することが出来る、夢のある事業にします。

まずは組織作りの第一四半期、そして、私がカンボジアで活動する第二四半期と、スタッフのがんばりや、会員の皆さまのお知恵や御支援無くしては絶対に出来ない、チャレンジングでそして革新的な事業ですので、今後ともご支援の程宜しくお願いします。

事業方針

カンボジアへ仕事を発注

- カンボジア人を雇い、仕事を発注し、適した事業領域を模索します
- 単純なデータ入力の仕事や、WEBサイトのデザイン・システムなどを発注し、実施します

日本スタッフの受託開発

- 売上を上げて、事業活動に必要な資金を稼ぎます。2005年度の売上目標は1200万円です。
- サポーターや企業の方々と一緒に積極的に開発プロジェクトを行うことで、ノウハウを獲得します。

カンボジアに展開する事業

方向性

オペレーション化できる単純な業務であり、日本語を必要としないこと

日本で有る程度の規模の市場があること

具体的な事業例

HTML作成
Web制作の過程でデザインやコンテンツを受け取りHTMLで実装する事業

画像加工
商品カタログ用に写真から画像を抜き出したり、間取り図を画像データにする事業

数字の打ち込み
伝票や、アンケートデータ、プログラムに必要なデータを打ち込む事業

子どもたちが訓練コース中に仕事をし得られるもの

- ・仕事をする上での責任感、品質の意識
- ・Web制作やプログラミングコースへの進学
- ・タイピングやPC操作の基礎スキル



会員事業

カンボジアと日本の
つながりを重視

将来像

カンボジアの
子ども



映像コンテンツなど
OJTで
作成したもの



会費

会員



会員の皆様にかものほしの事業やカンボジアの現状を理解していただくために、webサイトで定期的に情報を配信していく予定です。将来的には訓練を受けている子どもたちがOJTの中で会員向けコンテンツを作成し、それを会員の皆様へ発信することを予定しています。支援の成果をより目に見える形で皆様に伝え、子どもたちと会員のつながりを作ることを目指していきます。

具体的サービス内容
- 支援の成果を
目に見える形で

・かものほし特製パソコン用壁紙プレゼント

カンボジアや子どもたちの写真をパソコン用壁紙にし、毎月お届けします

・年一回の報告書・報告会

かものほしプロジェクトの成果を報告書・報告会という形でお伝えします

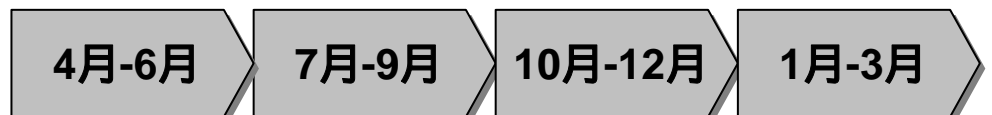
・カンボジアスタディツアー料金割引

カンボジアで起こっている問題を実際に体感するとともに支援の成果を実感してください。子どもたちとの生の交流を体験できます。

・会員限定webサイトへの参加

- 会員とスタッフ、カンボジアの子どもたちが交流可能な場にしたい -
会員限定のコミュニティwebサイトを夏以降にオープンする予定です。かものほしやカンボジアのことを良く深く知り交流できる楽しいコンテンツを用意してお待ちしています。

仕事作り事業全体の
スケジュール



データ事業

・マーケティング
・日本での受注/開発

カンボジアでの
実験

・青木が現地に行き有力事業の現地実験

・事業方針の確定
・日本/カンボジア間でのオペレーション構築

・事業本格展開

会員事業

・サービス設計
・既存Webサイト改善
・E-cardの配信開始

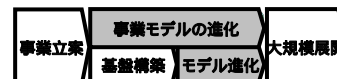
・現地の写真や映像コンテンツを作成し会員向けに配信開始

・事業本格展開

・コミュニティwebサイトサービス開始



財務報告

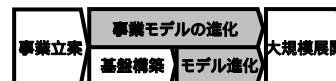


損益計算書					
自平成16年9月22日 至平成17年3月31日					
単位:円					
(収益事業の部)		(非収益事業の部)		(総計)	
収入	スタディツアー事業収入	3,252,200	会費収入	601,000	
	システム開発事業収入	3,801,740			
			その他事業収入	293,295	
			寄付金	3,838,881	
			雑収入	18	
			受取利息	9	
	収入合計	7,053,940		4,733,203	11,787,143
経費	職業訓練事業直接費用	1,498		2,943	4,441
	図書研修費	72,937		43,404	116,341
	会議費	8,415		5,140	13,555
	交際費	14,373		15,231	29,604
	広告宣伝費	0		81	81
	人件費	0		0	0
	福利厚生費	529		355	884
	駐在員派遣費用	12,032		8,073	20,105
	業務委託費	5,119,375		839,758	5,959,133
	家賃光熱費	393,172		263,820	656,992
	事務所消耗品費	54,227		57,085	111,312
	事務所維持費	349,782		33,038	382,820
	印刷製本費	20,668		20,190	40,858
	通信費	95,045		66,541	161,586
	旅費交通費	894,136		228,068	1,122,204
	租税公課	2,992		2,008	5,000
	商品仕入れ支出	6,768		24,500	31,268
	雑支出	15,504		10,260	25,764
	経費合計	7,061,453	経費合計	1,620,495	8,681,948
	税引前当期利益	-7,513		3,112,708	3,105,195
	法人税住民税など	40,700		0	40,700
	当期利益	-48,213		3,112,708	3,064,495

* 上記、-7,513円の税引き前当期利益を基礎に申告書で税額計算を行い、計40,700円の法人税等が確定しました。



財務報告



貸借対照表 (勘定式)

平成16年度「特定非営利活動に係る事業」会計 貸借対照表

平成17年度 3月31日現在

短 単位:円

科目	金額	
資産の部		
1 流動資産		
現金	71,158	
普通預金	3,794,866	
未収金	845,185	
仮払金	0	
流動資産合計		4,711,209
2 固定資産		
建物	0	
車両運搬具	0	
土地	0	
固定資産合計		0
資産合計		4,711,209

科目	金額	
負債の部		
1 流動負債		
短期借入金	0	
未払金	1,086,094	
未払法人税等	40,700	
預かり金	19,920	
仮受金	0	
流動負債合計		1,146,714
負債合計		1,146,714
正味財産の部		
前期繰越正味財産	500,000	
当期正味財産増加額	3,064,495	
正味財産合計		3,564,495
負債および正味財産合計		4,711,209

2004年9月22日、かものほしプロジェクトはNPO法人化しました。よって、会計期間は9月22日より05年3月31日までとなります。損益計算書、および貸借対照表の数値は、かものほしプロジェクトの下半期の業績に近い数値を示しているとお考えください。

【収入部門】

当団体では、収益事業としてシステム開発事業、ツアー事業を行っています。会費/寄付金収入は非収益事業です。収入部門の合計は、約1200万円となっております。そのうちシステム開発事業は380万円と、約三分の一を占めております。システム開発事業は04年度の当初の目標を達成できなかったものの、前年度と比較して、大きく成長した事業であると考えております。ツアー事業は当団体でスタディツアーを企画し、参加者を集めております。旅行代理店に航空券手配など委託しているため、売上げは320万円と多いものの、利益は約80万円ほどになります。また、法人化時にスタートした会員事業に、当初見込みより多くの方に入会していただいたことで会員事業収入が予算より増収となりました。当団体では自立した収益源を手に入れることを目指しておりますがまだまだ未熟で、十分にそれが達成できているとは言えませんし、組織の安定性を高めるために収入源の多様化しなくてはならないと考えております。その点からも、会員事業による皆様のご支援は今後もより重要となると考えております。

【支出部門】

支出の合計は約870万円です。支出の比重はカンボジアでの支出が多く、全体の3分の1弱は、カンボジアの「たまごプロジェクト」で使用した費用です。その中でも大きな割合を占めるのが、駐在員給与、クメール人スタッフ給与、また、事務所家賃などです。その他に、システム開発や日本での事務局などの人件費(作業委託費)が大きな割合を占めます。05年度も引続き、よりミッションの達成のために効率的にコストを分配していきたいと考えております。

【05年度繰越金】

上記の収支を受けて、かものほしプロジェクトでは約300万円の繰越額を計上しました。これは2005年度のかものほしプロジェクトの活動を進める上で、好材料になると判断できます。



執筆者一覧

執筆

青木健太、江藤恭輔、大久保敦代、松島由佳、村田早耶香、本木恵介

表紙デザイン
デザイン、構成
校正
編集

sirou
大久保敦代
足立菜穂子
大久保敦代

編集後記

かものはしプロジェクト2004 2005報告書を読んで頂き、ありがとうございます。いかがでしたでしょうか？皆様が読んでいて楽しいものを、ということで今回の報告書の構想段階からスタッフで話し合い、このような形式に致しました。

決まるまでに、多くの意見がぶつかり、本当にこれで皆様が満足されるのかという迷いは最後までありました。しかし私たちとして最も伝えたい思いを表現できるものという意味でもこのような報告書に決まりました。楽しんで読んでいただければ幸いです。ご意見、ご感想などをぜひお寄せ下さい。

かものはしプロジェクトは2005年度、実際にカンボジアに仕事を出すという収益の上でのカンボジアと日本のつながりを出そうとしています。2004年度の職業訓練のパイロットプロジェクトから確実にプロジェクトは進んでいると感じています。

みなさまの変わらぬご支援を宜しくお願い致します。

編集者

NPO法人かものはしプロジェクト

〒182 - 0022

東京都調布市国領町4-48-9 村田ビル1階

TEL / FAX: 0424-99-0266

URL: <http://www.kamonohashi-project.net/>

E-mail: info@kamonohashi-project.net

copyright(c) 2005 All right reserved. かものはしプロジェクト